

## みんなでお薬かるた

沼尻幸彦<sup>\*1</sup>, 大島新司<sup>\*2</sup>, 新津 勝<sup>\*3</sup>, 従二和彦<sup>\*4</sup>,  
近藤誠一<sup>\*5</sup>, 橋本フミ恵<sup>\*6</sup>, 日比野康英<sup>\*7</sup>, 杉林堅次<sup>\*8</sup>

〔抄録〕 医薬品の適正使用を遊びながら学ぶことのできる「みんなでお薬かるた」の作成を試みた。作成に際しては、学生が中心となり、教員は適切な時期に学生に助言を行うにとどめた。作成に携わった学生は達成感を得ることができ、教員も改めて教育方法の大切さを再認識できた。今回作成した「みんなでお薬かるた」には、中学校の新学習指導要領に新しく盛り込まれた「医薬品の正しい使い方教育」に関連する内容の一部を盛り込んだ。市民が本かるたを使用することで、医薬品に関心を持ち、医薬品の正しい使い方に一歩でも近づいてもらえればと期待する。

〔キーワード〕 かるた, 医薬品の適正使用, 新学習指導要領, 医薬品の正しい使い方教育, 形成的評価

### 1. 「みんなでお薬かるた」誕生の経緯

城西大学薬学部（以下、本学）は、人々の健康増進を支援する薬剤師養成をめざす「薬学科」、健康を保つ食事を提供し、患者にやさしい食事を提供できる管理栄養士養成をめざす「医療栄養学科」、および生活者の視点で、食品・化粧品・医薬品の専門家をめざす「薬科学科」の3学科から構成されています。これらの3学科の特徴を活かしたカリキュラムにより、薬のみならず、薬と食品との相互作用や食品に関する知識も併せ持つ薬剤師、食品に限らず食品と薬との相互作用や薬に関する知識も併せ持つ管理栄養士、薬や食品に関する知識に加え、医療の視点から発想のできる食品・化粧品・医薬品の専門家を育てることができます。

このうち「医療栄養学科」では、学生サークル「DHA」が中心となって、遊びながら食事や栄養の知識を身につけることのできる「みんなでお薬かるた」（図1）を作成し、本学キャンパスがあ

る坂戸市内の公立保育園などで使用していただき話題となりました<sup>1)</sup>。

一方、「薬学科」および「薬科学科」では、学部学生で構成された学生委員会「城西大学薬学部薬学会」（以下、薬学部薬学会）が中心となり、「お薬かるた」の作成を目指していました。当初の構想は、古くからある一般用医薬品の商品名とイラストを取り札とし、読み札には、医薬品の商品名と正しい使い方を盛り込み、これを老人介護保健施設などで使用していただき、お年を召された方々が、古くからある一般用医薬品の商品名とイラストを見て、昔を懐かしむと同時に医薬品の正しい使い方を遊びながら身につけることができるというものでした。しかし、一般用医薬品の商品名とイラストが取り札となり、また、読み札で商品名が読まれることで、一部の製薬企業の商品のみが取り上げられ、特定の製薬企業の利益につながってしまうことや、商標権の問題もあり、実現を難しくしていました。

そこで、薬学部薬学会の相談を受けた薬学部の薬剤師の資格を有する教員（以下、有資格教員）と学生とで話し合い、「お薬かるた」の構想を医薬品として一般用医薬品を取り上げるのではなく、医薬品の正しい使い方、すなわち「適正使用」に重点を置くこととし、医薬品の「乱用防止」も盛り込んだ「みんなでお薬かるた」の作成に取り組むこととなりました。

\*1 Sachihiko NUMAJIRI, \*2 Shinji OSHIMA,

\*3 Masaru NIITSU, \*4 Kazuhiko JUNI,

\*5 Seiichi KONDO, \*6 Fumie HASHIMOTO,

\*7 Yasuhide HIBINO and \*8 Kenji SUGIBAYASHI  
城西大学薬学部

〒350-0295 坂戸市けやき台1-1

E-mail: numajiri@josai.ac.jp



図1 みんなでお薬かるた

## 2. 「お薬かるた」の構成

医療栄養学科の学生サークル「DHA」で作成した「みんなでお薬かるた」を手本として、「お薬かるた」の読み札には、医薬品の「適正使用」および「乱用防止」の標語を取り入れ、取り札には、標語を的確に表現したイラストを描くこととしました。添付する解説書には、「あ」から「わ」までの標語について簡潔な解説文を掲載することとしました。解説文を掲載することで、保護者とともに小学生位からでも使用することが可能とされます。

## 3. 「お薬かるた」作成の流れ

「お薬かるた」の作成は、以下の手順で行いました。

- ①有資格教員が、医薬品の「適正使用」および「乱用防止」の観点から、読み札の原案の作成を試みました。しかし、上記の観点のみから「あ」から「わ」までの読み札を作成するのは困難を極めました。そこで、「薬の専門家である薬剤師は、ファーマシューティカルケアの概念を踏まえて、その役割を果たすことが望まれている」ことから<sup>2)</sup>、禁煙など健康維持に関連した読み札、加えて「薬剤師の役割」についても読み札に取り入れることとし、読み札の原案を作成しました。
- ②読み札の原案を、薬学部薬学会へ戻し、上位学年となり薬学に関する専門教育を受けた学生が中心となって話し合い、読み札の原案を修正しました。その後、有資格教員が、修正案に関して助言を行い、再度、学生による修正を行いました。
- ③学生が「あ」から「わ」までの読み札の原案のポスターを作成したのち、これを薬学部のロビーに2週間掲示し、読み札の内容、読み札の語呂などについて、薬学部の教員および学生に対して広く意見を求めました。
- ④ポスター掲示により、寄せられた意見をもとにして、読み札の改訂版の再修正を行ったのち、これを最終的な読み札（以下、「読み札」としました。「読み札」をもとに薬学部薬学会に取り札のイラスト原案の作成を依頼しました。
- ⑤「読み札」の解説書の原案は、研究室配属の上位学年の学生が行いました。解説書の解説文は、概ね100～150字程度の長さとししました。有資格教員が、解説文にオリジナリティーや薬学的観点を加えること、そして一般の方々も理解が可能な平易な文章になるように助言を行い、学生により再修正を行ったのち、最終的な解説書（以下、「解説書」としました。
- ⑥「読み札」の文章が、取り札のイラスト原案に適切に反映されているか、また、イラスト原案中に商標権の問題が発生する部分がないかにつ

いて、有資格教員が確認し、再度、学生による修正を経て、最終的な取り札（以下、「取り札」としました。図2に「読み札」、「取り札」および「解説文」の例を示します。

⑦完成した「読み札」、「取り札」および「解説文」の印刷を外部の印刷所に依頼しました。

#### 4. 「お薬かるた」に期待されること

「みんなでお薬かるた」に最も期待されることは、医薬品の「適正使用」や「乱用防止」に関する知識を身につけることですが、一般の方々に医薬品に対して関心を持っていただくことにもある



読み札	取り札	解説文
<p>くすり飲む 適量のさ湯で 胃にやさしい</p>		<p>さ湯（真水を沸かし室温に戻した水）は、煮沸することで滅菌されること、また、湯ざましともいわれるように、冷水と比較して刺激が少なく胃腸にやさしいとされています。</p>
<p>すいみんやく 人にあげては いけません</p>		<p>睡眠薬はその人個人の症状、睡眠のリズム、年齢などを考慮して処方されています。眠れなくて困っている人がいても自分のお薬をあげてはいけません。</p>
<p>りょうやくは 口に苦しは 昔の話</p>		<p>「良薬は口に苦し」ということわざがあります。これは良く効く薬は苦いものということに由来しています。しかし現在では苦い薬も苦く感じないようにコーティングを施したり、味をつけたりして飲みやすいように工夫されています。</p>

図2 「お薬かるた」の構成

と思います。

次に「読み札」の標語の中には、一般の方々には少しばかり難しいものがありますが、「いったいどういうことなのか」と疑問を持ち、「読み札」に記載されている標語と「取り札」のイラストを対応させ、かるたに添付されている「解説書」の解説文を読んで、医薬品に関する知識を身につけることです。このことは学習の基本である「関心を持つこと」、「疑問を持って調べること」に繋がります。さらなる医薬品に関する知識の修得に発展することも期待されます。また、今回作成を試みた「みんなでお薬かるた」では、医薬品に関する知識を身につけるための授業のように単に説明を聴くのみならず、かるた遊びをしながら、すなわち、読み上げられた「読み札」の標語を聴いて、手を動かし「取り札」を取る行動が、受身型でなく参加型の学習と考えることができ、達成感を感じる楽しい学習方法のひとつとなることも期待されます。

## 5. 図書館との係わり

「みんなでお薬かるた」の「取り札」のイラストは、薬学部薬学会の学部学生がすべて描きました。今回取り上げた「読み札」の標語から「取り札」の的確なイラスト原案を作成するには、医薬品の「適正使用」、「乱用防止」および「薬剤師の役割」を理解している必要があります。「読み札」に記載されている標語についての「解説文」はあるものの、イラスト原案の作成に携わった学生は、図書館に収蔵されている薬学に関連する図書や雑誌を参考にして「取り札」のイラストを描いたとのことでした。おそらく、この学生は、イラスト原案の作成に参考となる書物に辿り着くために、多数の関連する書物も閲覧したことでしょう。使い方によるとは思いますが、コンピュータによる検索エンジンに頼らずに書物を手に取って地道に調べる昔ながらの作業が、知識の幅を広げることに繋がっていることを多くの学生に再認識してほしいと思います。

## 6. ま と め

平成24年4月から中学校において、子供たちに「生きる力」を育むことを目指した新学習指導要領が全面実施されました。この指導要領において保健分野の目標は、「個人生活における健康・安全に関する理解を通して、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる」とされており<sup>3)</sup>、「医薬品の正しい使い方教育」が盛り込まれました。「みんなでお薬かるた」では、これらに関連する内容の一部を盛り込んだに過ぎません。しかし、このかるたを使用することで、医薬品に「関心を持つこと」が足掛かりとなり、「医薬品の正しい使い方教育」に少しでも役立つことができれば嬉しいものです。

また、本かるたの作成は、学生の主体性を重視し伸ばすことができるように、有資格教員が適切な時期に助言を行い、形成的評価をすることで円滑に進めることができました。作成に携わった学生は、ひとつのプロジェクトを完成させた達成感を得ることができ、助言を行った有資格教員も改めて教育方法の大切さについて再認識することができたと思われまます。

「お薬かるた」の作成に携わった学生委員会「城西大学薬学部薬学会」の皆さま、薬学部の教員および学生に対してご意見を求めるポスターと解説文の原案の作成に携わった分析化学研究室配属生の安部由香利氏、山田祐大氏、読み札の内容や語呂に関してご意見をいただいた薬学部の先生方、および「お薬かるた」作成に関して多大なるご助言をいただいた食品機能学教授 真野 博先生に深謝いたします。

## 引用文献

- 1) 大学生考案食育カルタ. 読売新聞. 平成22年3月8日.
- 2) 日本薬剤師会編. “1 調剤の概念”. 第十三改訂 調剤指針. 東京, 薬事日報社, 2011, p.3. (ISBN9784840811934)
- 3) 文部科学省. “中学校学習指導要領 新旧対照表”. 文部科学省. (オンライン), 入手先 <[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/index.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/index.htm)>, (参照 2012-07-26).

(原稿受付：2012.7.20)